

太古の昔の縄文時代は平和な時代でした

日本の遠い昔の縄文時代は、竪穴住居に象徴されるように物は貧しかったけれども、心は豊かで平和な時代でした。人々の生活は人と人と、人と自然、人と神とが仲睦まじく生きてきた時代であったことが明らかになっています。その証拠に縄文時代の私たちの先祖の生活は、集落を守る堀とか柵とか城壁とかは一切なく、遺跡を発掘してもそこからは武器とか戦いなどで命を失った遺骨は出てこないということです。

それに反し世界中の遺跡では堅固な城壁や武器、戦争で命を失った遺骨が数多く出土されています。

そこに太古の昔の日本とそれ以外のところのでは根本的に人々の生き方が違っていたことが、考古学的にも明らかになっているということです。

その平和な縄文の時代が、なんと一万数千年も延々と続いていたのです。しかも全国各地にあるそれらの集落はネットワーク的につながり、文化的にも「縄文尺」という統一した基準があり、各地で発掘される建物は縄文尺で作られていたということです。そして縄文晩期には土器に付着した穀殻から類推して、農業も始まっていたの説もあるようです。

靈性豊かな調和の生き方が展開されていました

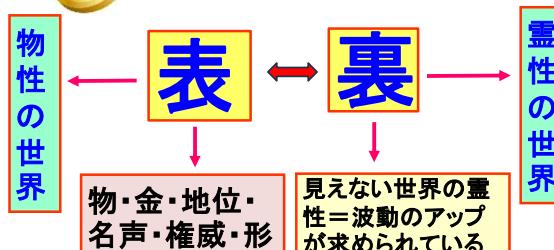
ということは、私たちが今まで学校で習っていた縄文時代は狩猟採集の時代であり、獣の皮を着て野蛮で文化的なもののない時代と認識していましたが、今日、考古学的な発掘により、それらの見解が本質的に違っていることが明らかになっているということです。

そして縄文時代の人々の精神性は極めて高く、各地で発見されている神代文字やホツマツタエ等の古文献に記録されているように、既に文字は勿論、和歌まであり、人と人、人と自然、人と宇宙が一体化した調和文明がそこに息づいていたようです。それ故に平和な時代が一万数千年間も続いていたということになるわけです。

表現を変えれば、太古の日本は極めて精神性の高い、靈性豊かな調和の生き方が展開されていたことを意味しているのです。



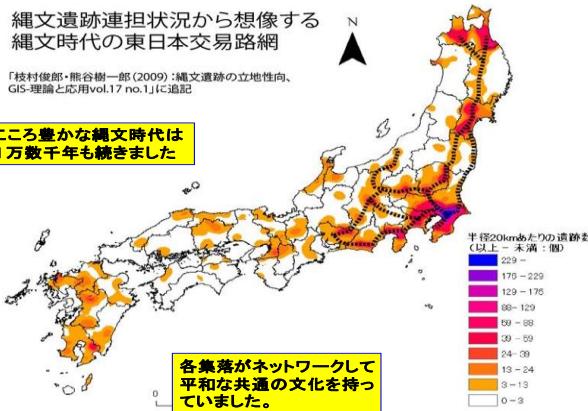
「体」と「靈」はコインの裏表



「物性と靈性は表裏一体」。人類は物性にのみ執着し、その裏にある靈性を疎かにして暴走し今日の危機・混乱の世界を作り出しているのです。

ということは明らかであります。

過去三千年来の人類の足跡を顧みますと、人々が物・金・エゴ(利己)に心を奪われ、対立・摩擦・抗争・戦争を積み重ね悩み苦しみ続けてきました。そして今日、原水爆やミサイル等の殺人兵器の開発や、地球自然環境の破壊、世界の各地で湧き起こっている紛争や深刻な社会不安に象徴されるように、人類は救い難い滅亡の危機に直面していると言えましょう。



唯物的な現代世界は矛盾と混乱と危機に直面

翻って世界人類の足跡を顧みると、今から500年ほど前から西洋で急速に発達した物質科学文化というものに目を奪われ、目に見えない精神性・靈性というものを軽視または無視して、物質的なものやお金やエゴというものにとらわれて、宇宙の大きいなる摂理から反した生き方で暴走しています。

その表が、物心のアンバランスによる今日世界で様々な分野で湧き起こっている矛盾であり、混乱であり、危機であり、大規模に見れば人類は破滅の方向へと進んでいると

視点を替えてこれらの危機と混乱を観察すれば、物主体とする生き方が限界に達していることを示しているのであり、長い歴史の中で積み重ねてきた誤ったカルマが噴出している清算現象ともいえるのです。

靈性回帰の「Uターン」の時代を迎えています

ところが殆どの人類は気付いていませんが、今日、宇宙の大きいなる時の法則によって、時代は大きな転換期を迎えていいます。「体主靈従」から「靈主体従」の時代へと、宇宙の大きいなる愛によって人類の生き方が180度転換する時に直面しているのです。

スピリチュアルの世界ではこのことが早くから預言されていました。分かりやすく表現すれば物質中心の時代から精神・生命・靈性主体の時代が到来し、物心調和の理想世界が開かれて

行くことが説かれていました。そして今まさに人類はその預言通りの時を迎えていいます。

このことを私たちが何気なく使っている文字が証していますので紹介いたしましょう。「字」は「アザ」と読みます。「字」→「アザ」→「天座」の意味が秘められているように、そこには人智を超えた宇宙の意図が組み込まれているのです。

その「文字」の奥に秘められた真理を読み解くことが出来る光透波理論=命波学で、「21世紀」と「令和」の時代を読み解きますと、アルファベットの「21」番目は「U」であり21世紀は靈性豊かな時代へ「Uターン」すると解することができ、「令和」には「靈性に和す」意味が秘められていることが浮かび上がります。

すなわち、驚くべきことに「21世紀の令和の年号」は、人類が「Uターンして靈性に和す」時代に入ったことを文字は明示していたのです。

光透波の字割が明かす「闇」から「光」の転換

そして「令和6年」の昨年は辰歳、「竜」は上図のように「音」と「L」の合成文字であり、音が開かれると読み解けます。音が閉じられた文字が「闇」ですから闇が開かれることを意味します。

続く「令和7年」の昨年は巳歳、「巳」の文字は左の図解のように「コ」と「L」の合成文字です。「L」には開く意味があり、「コ」=「光」が開かれる光の時代の幕開けと解せます。従って光に向かって大きく変わってゆく年でありました。

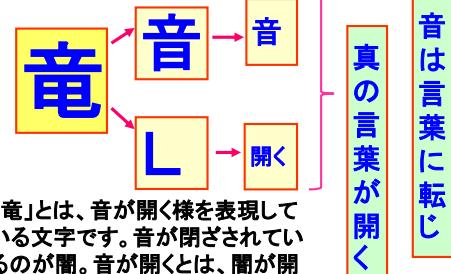
事実、前号で紹介しましたように光の時代の到来により、日本は大きく舵を切っていました。

その表れとして世界を仕切るDS(闇の勢力)や共産中国の謀略によって、我が国は迷走し解体の方向へ進んでいたのですが、7月の参院選で「日本ファースト」を唱える参政党が台頭、国家国民の声を無視した自民党の凋落、中国に服従して操られていた公明党が政権与党から離脱、日本の心を堅持する高市首相が就任、オールドメディアの信用失墜、財務省の闇が暴かれデモが頻発…、これら一連の動きは、我が国が闇から光の時代へ転じたことを意味し、日本の国益を重視する政策転換へと大きく舵を切っていました。

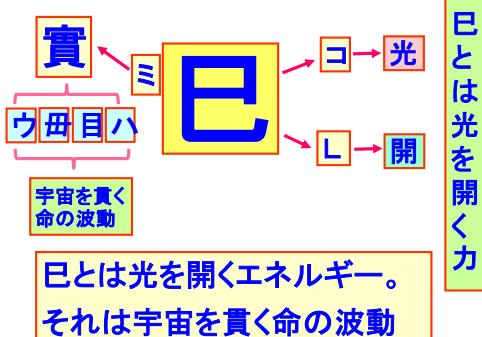
「午歳」の今年は最高度に「闇」と「光」が浮かび上がる

そして令和8年の今年は「丙午」の年、午歳、「午」を読み解

闇の字は音が閉ざされている



「竜」とは、音が開く様を表現している文字です。音が閉ざされているのが闇。音が開くとは、闇が開かれる意味になります。

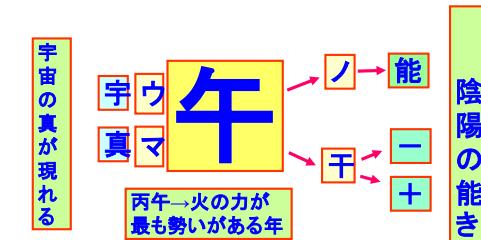


文字は明示していたのです。

光透波の字割が明かす「闇」から「光」の転換

そして「令和6年」の昨年は辰歳、「竜」は上図のように「音」と「L」の合成文字であり、音が開かれると読み解けます。音が閉じられた文字が「闇」ですから闇が開かれることを意味します。

続く「令和7年」の昨年は巳歳、「巳」の文字は左の図解のように「コ」と「L」の合成文字です。「L」には開く意味があり、「コ」=「光」が開かれる光の時代の幕開けと解せます。従って光に向かって大きく変わってゆく年でありました。



陰陽、善惡の能きが最も強く出て、眞実が映し出される歳。

くと図解のように「陰陽(プラス・マイナス)の能きが最も強く浮かび上る年。「ウマ」→「有真」、本年は、良い面と悪い面が同時に最高度に現れて、そこに眞実が浮かび上る年と解読することができます。因果の法則通りに世界中で正邪善惡(ポジティブな面とネガティブな面)の現象が激しく浮かび上る年

と予測されるのです。さてはて、この意味で新年早々に行われています総選挙、どのような結果が出るのやら……。

いずれにしても大局観に立てば時代は靈性に和す光の時代を迎えているのですから、闇から光へと移り変わって展開してゆくことは間違いないものと推理できるのです。

同時に私たちの生き方もこの時代の流れに沿って、物質主体の考え方から精神・靈性主体へと進化して歩むことが求められているのです。「体主靈従」から「靈主体従」へと価値観を転換し、物質と精神の調和を取り戻すことが求められているのです。これは時代そのものが求めている必然的な変化なのです。

文字が教える光り時代の哲理こそ光透波

さて、毎号の本誌で繰り返し記してきましたが、宇宙の根源は精妙な波動であり、言葉はその波動を左右する根源的な力を有しています。このことを聖書では「初めに言ありき、言葉は神と共にあり、…すべては言葉によって成りき…」と記されているのです。しかし人類は今までこの文言の本質を理解することが出来ず、言葉を単なる道具として乱用してきました。その結果、宇宙の法則から逸脱し混乱や不幸を招いているとも言えるのです。

光透波理論＝命波学は、この言葉の本質を明らかにするとともに、時代の転換を生き抜くための道標となる哲理でもあるのです。

人は「時・所・人」に応じた生き方が求められています。表現を換えれば現在は夜から昼へ移行する大転換期であり、過去の価値観に依存しては救われない時代です。新しい時代にふさわしい精神性を身につけ、価値観を切り替えることが不可欠なのです。

それ故に昔から靈ノ本の国と称し、大和の国と言われ、言靈の幸はう国と伝えられて來た、日本の言葉文化の中から誕生した新時代の哲理・光透波を学ぶ意義は極めて高いと言えるのです。

ご関心のある方は各地開催のセミナーへ…。ご一緒に学んでみませんか？

文責・宿谷

2月 光透波セミナーのご案内

●光の言波・真理教室（第175回 光透波セミナー）

- 日 時 2月 9日(月) PM 1:30～PM4:45
- 場 所 神明いきいきプラザ 集会室 B(4F) 東京都港区浜松町1-6-7
- 演 題 「救いの道は言波の浄化」 JR浜松町(北口) 地下鉄大門(B1) 各4分
- 講 師 宿谷直晃 ●参 加 費 3,000円(事前支払者は、2,000円)

●第6回 光の言波・交流交換会

- 日 時 2月22日(日) PM 2:00～PM5:30
- 場 所 和の音交流館 4階研修室 JR御徒町南口 徒歩6分
東京都台東区上野5-4-1
- テ ー マ 字割・命波学理論・光の言波真理教室の補講・その他交流学習
- 参 加 費 ワンコイン(500円) & ハートマネー

※ 以上 講座の申し込み先 090-2447-2037 (宿谷まで)

「日本語の言靈パワーと光透波エネルギー」宿谷直晃著 ヒカルランドから発行

全国の有名書店で発売中。アマゾン等のネットでも購入可

定 価 3000円 + 消費税

●名古屋 命波学講座

●日 時	2月 5日(木)	PM 1:00～PM 4:00	基礎講座詞語會 2 第25回
●日 時	2月 8日(日)	PM 1:00～PM 4:00	基礎講座詞語會 5 第7回
●日 時	2月 9日(月)	PM 1:00～PM 4:00	基礎講座詞語會 1 第26回
●日 時	2月24日(火)	AM 10:00～PM 1:00	基礎講座詞語會 3 第23回
●日 時	2月25日(水)	PM 1:00～PM 4:00	基礎講座美濃會 第22回
●日 時	2月28日(土)	PM 2:00～PM 5:00	和やか会(字割検証)
●場 所	實光透波スペース	名古屋市名東区香南1-103-8-201	
●講 師	堀尾君子	●参加費 各3,000円	

※ 命波学受講の日時調整可。お申し込み、問い合わせは堀尾へ 090-8499-5989

●名古屋光透波講座

●日 時	2月 3日(火)	AM 10:00～PM 0:30
●演 題	中級 「心のお話・50音による認識のしくみ」	
●日 時	2月10日(火)	AM 10:00～PM 0:30
●演 題	「神話と光透波」	
●場 所	ペボ 名古屋市昭和区山手通り415 コメダビル 会議室	
●講 師	磯部 賢一	●参加費 3,000円

※ 以上 お申込み、お問い合わせは磯部賢一へ isobeg@gmail.com 090-9199-0248

●Zoom 入門講座

●日 時	2月14日(金)	AM10:00～PM0:00	「神さまのお話」
●日 時	2月20日(金)	AM10:00～PM0:00	「名前鑑定士養成講座」
●日 時	2月25日(水)	AM10:00～PM0:00	「コトハ50音解説講座」
●日 時	2月26日(木)	AM10:00～PM0:00	「コトハ50音解説講座」
●講 師	磯部 賢一	●参加費 各3,000円	

●Zoom 個人レッスン(初回無料)

●予約制 都合よい時間に受けられる 一対一の対話形式

●講 師 磯部 賢一 ●参加費 ドネーション 1時間×3回コース 又は10回コース

※Zoom講座のお申込み、お問い合わせは磯部へ isobeg@gmail.com、i 090-9199-0248

●言靈セミナー (言靈セミナー40周年記念、林仙山荘6周年記念)

●日 時	2月 4日(水)	AM 9:00～PM5:00
●場 所	兵庫県加古郡播磨町西野添2-5-12	林和也宅
●内 容	言靈全般に関するセミナー	
●参 加 費	通常60分3000円を2000円に	直会Party参加費は1500円

●講 師 林 和 也 ※ 以上 講座の問合わせと申込み 090-8580-3776(林まで)

實光透波研究会	名古屋市名東区香南1-103-8-201	堀尾君子
メールアドレス	s8910kimiko@yahoo.co.jp	090-8499-5989
光透波塾	名古屋市熱田区旗屋2-16-4	磯部 賢一
メールアドレス	isobeg@gmail.com	090-9199-0248
光の言波、真理教室	東京都品川区小山6-19-5	宿谷直晃
メールアドレス	syu98-8do8@mbr.nifty.com	090-2447-2037
光透波、言靈セミナー	兵庫県播磨町西野添2-5-12	林 和 也
		090-8580-3776

光透波の会

光透波のホームページ <http://kotohawanokai.web.fc2.com>